

黒姫ライジングサンホテル

Kurohime Rising Sun Hotel

(長野県上水内郡信濃町)



外観

今回紹介するのは、黒姫ライジングサンホテルの風呂、他である。

黒姫ライジングサンホテルには1階に大浴場がある。50人は入れると思われるような大きさだ。温泉ではないようだが、旅の疲れを癒すには十分である。黒姫ライジングサンホテルは冬の間はスキー客でにぎわう。スキー客がゲレンデからどっと戻ってきて、夕方は利用のピークを迎える。そういう状況でも大きなキャパシティで迎えてくれるというわけだ。

但し、黒姫ライジングサンホテルにはサウナ、水風呂はない。あくまでも風呂を楽しむための風呂ではなく、スキーの疲れを癒すための風呂、つまり脇役に徹しているということであろう。

黒姫ライジングサンホテルをスキーヤーにとって快適にさせているのは風呂だけではない。地階のゲレンデに近い方には大きなスキーロッカーがある。もちろん鍵付だ(利用料は無料)。スキーロッカーからは階段を経ることなく、ゲレンデまで徒歩約2分の至近距離だ。

さらに、地階のスキーロッカーの反対側、すなわち玄関側には、広大なスキーの整備場所・ワックススペースがある。たくさんの会議用のテーブルが置かれ、これにスキーを固定してスキーのメンテナンスを心ゆくまで行えるのだ。もちろん、スキーワックス用のアイロンのため、電源も自由に使える。

最近、黒姫高原のスキー場(正式名称は「黒姫高原スノーパーク」)はあまり客が入っていないように思える。近くに妙高や野沢、志賀高原などのビッグゲレンデがあるので、

黒姫のような中堅のゲレンデは集客が難しいのかもしれない。しかも、最上部の難斜面は閉鎖され、楽しめる標高差は昔（約 700m）に比べて大分減ったようである（現在は 420m）。

それでも斜面は多彩だ。下部の緩斜面は初心者にとって快適な練習場所だろうし、上部へ行くほど斜度がきつくなり、上級者も満足できることであろう。しかも、圧雪をしていない斜面も多く、パウダーやコブも楽しめる。

実は、取材班は、とあるスキーレースに参加するために黒姫高原を訪れ、黒姫ライジングサンホテルに宿泊した。黒姫ライジングサンホテルは、そういったニーズにも応えてくれるホテルである。

すなわち、部屋は和室と洋室の両方があり、ベッドでも布団でも寝ることができる。一番ありがたいのは、部屋に 2 次会の開催ができるだけのスペースがあることだ。スキーへ行って 2 次会もできない宿泊場所なんて全く利用価値がないと思う。取材班の場合、2 次会は午前 3 時まで続いた。

黒姫ライジングサンホテルはスキーヤーを十分に満足させてくれる風呂、客室、スキーロッカー、ワックススペース等を備えている。いざ、スキーへ行かん。

- 名称：黒姫ライジングサンホテル
- 所在地：長野県上水内郡信濃町黒姫高原
- 電話：026-255-3211
- 営業時間：要確認（清掃時以外は入浴可）
- 定休日：無休
- 通常入浴料：宿泊客は無料、日帰り入浴可（入浴料要確認）
- サウナ：なし
- サウナ内のテレビ：なし
- 取材日：2012 年 2 月 25 日（土）、26 日（日）
- 取材：銭湯愛好会・東京支部